

衛研第3 - 18号
平成28年 8月 3日

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。
なお、今週は下記の内容を含んでいます。

記

1. 今週の県内情報
2. 今週の注目される定点把握対象疾患の推移（グラフ）
3. 注目すべき疾患（腸管出血性大腸菌感染症・ヘルパンギーナ）
4. 今週の全数把握対象疾患の報告数、累計
5. 今週の定点把握対象疾患の報告患者数、定点当たり報告数
6. 全国及び関東情報
7. 今週の流行状況

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493 - 59 - 9325
FAX 0493 - 59 - 9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成 28 年 第 30 週（平成 28 年 7 月 25 日～平成 28 年 7 月 31 日）

今週の注目される疾患 図は <今週の注目される定点把握対象疾患の推移> を参照

全数把握対象疾患では、一類及び二類（結核を除く）の届出はなかった。三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症 9 人の届出があり、前週(3 人)より増加した。四類感染症は、レジオネラ症 2 人の届出があった。五類感染症は、アメーバ赤痢 1 人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 人、急性脳炎 2 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 人、後天性免疫不全症候群 1 人、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 人、梅毒 4 人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、ヘルパンギーナ(6.06 7.12)の定点当たり報告数は、前週より増加し、前年同時期に比べかなり多い状況が続いている。保健所別では全保健所管内から報告があり、熊谷(8.89 13.00)保健所管内で大きく増加し、朝霞(10.29)、春日部(9.33)、川越市(9.00)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では 1～4 歳で全体の 77.2%を占めている。流行性耳下腺炎(1.54 1.43：図 1)の定点当たり報告数は、前週と同水準に留まり、依然報告数の多い状況が続いている。保健所別では、秩父、本庄、川越市保健所を除く 13 保健所管内から報告があり、坂戸(2.83)、幸手(2.44)、狭山(2.35)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では 5～7 歳で全体の 51.3%を占めている。咽頭結膜熱(0.41 0.54：図 2)の定点当たり報告数は、前週よりわずかに増加した。保健所別では、鴻巣、坂戸保健所を除く 14 保健所管内から報告があり、春日部(3.33)保健所管内からの報告が多い。手足口病(0.85 0.96：図 3)の定点当たり報告数は、前週と同水準に留まり、大流行した前年に比べ低い水準で推移している。保健所別では、秩父、本庄保健所を除く 14 保健所管内から報告があり、さいたま市(1.89)保健所管内で多い状況が続いている。眼科定点報告対象疾患では、流行性角結膜炎 24 人の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、無菌性髄膜炎 1 人、マイコプラズマ肺炎 7 人の報告があった。

<全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし（結核を除く）	
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9 人（類型 患者 5 人、無症状病原体保有者 4 人、血清型 O157 4 人、O26 4 人、O121 1 人）
四類感染症	レジオネラ症	2 人（病型 肺炎型 2 人）
五類感染症	アメーバ赤痢	1 人（病型 腸管アメーバ症）
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 人（菌種 <i>Citrobacter</i> sp.）
	急性脳炎	2 人（病原体 単純ヘルペスウイルス 1 人、B 群溶血性レンサ球菌 1 人）
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 人（血清群 A 群 1 人、B 群 1 人）
	後天性免疫不全症候群	1 人（病型 AIDS）
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 人
	梅毒	4 人（病型 早期顕症 期 2 人、早期顕症 期 2 人）
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 人

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。

衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613

e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>) で御覧になれます。

< 今週の注目される定点把握対象疾患の推移 >

図1 流行性耳下腺炎

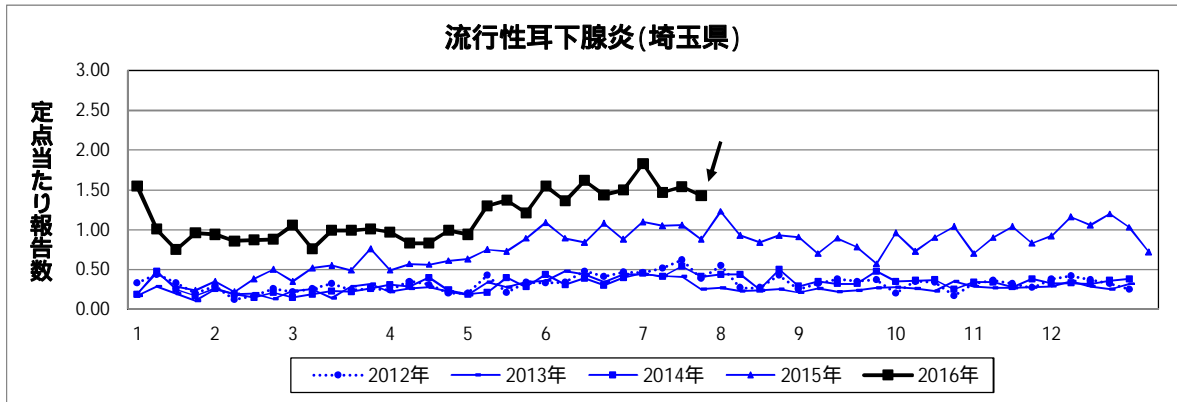


図2 咽頭結膜熱

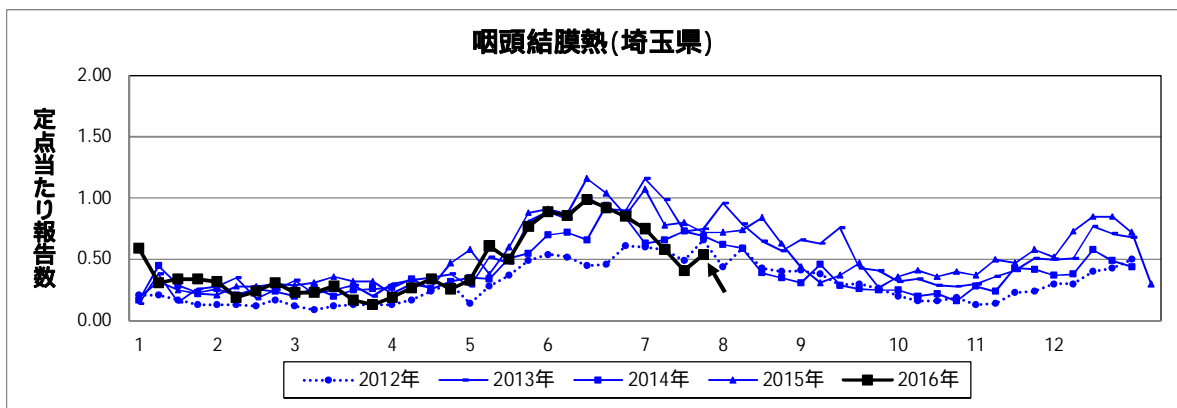
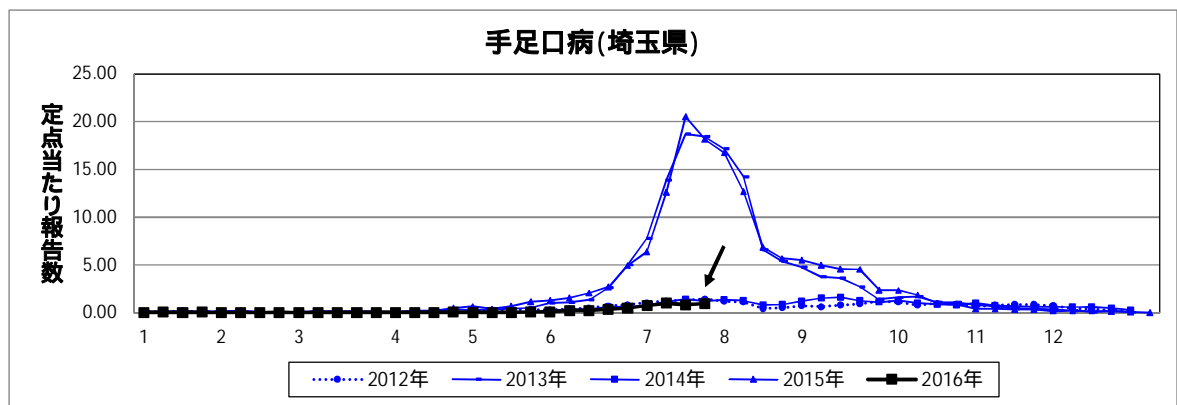


図3 手足口病



注目すべき疾患

- 腸管出血性大腸菌感染症 -

診断日を基準にした集計では、第30週に診断された腸管出血性大腸菌感染症は10人で前週より増加した。10人の血清型はO157が5人（VT1,VT2 3人、VT2 2人）、O26が4人（VT1 4人）、O121が1人（VT2）であった（図1）。

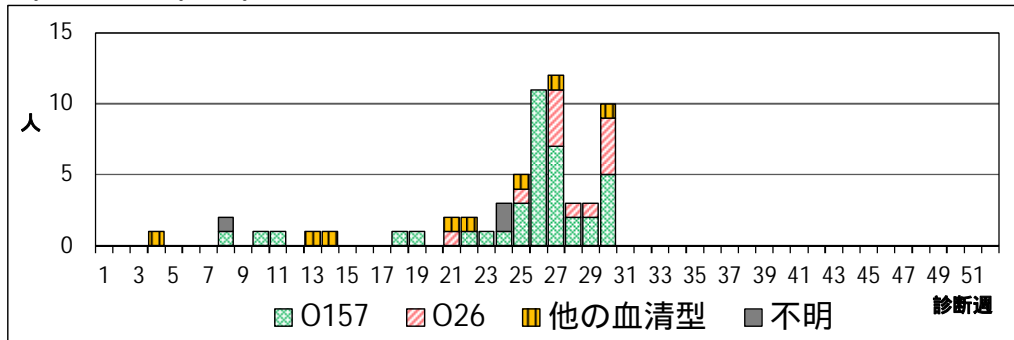


図1 腸管出血性大腸菌感染症発生状況（診断週集計）

- ヘルパンギーナ -

前週(第29週)に流行警報が発令されたヘルパンギーナの今週の定点当たり報告数は、前週より増加し、引き続き注意が必要である（図2）。保健所別では、10保健所管内で定点当たり6.00を上回り、熊谷(13.00)、朝霞(10.29)、春日部(9.33)、川越市(9.00)保健所管内からの報告が多い（図3）。

病原体サーベイランスで6月に採取された17検体からは、前年には検出がなかったコクサッキーウイルスA4が5件検出されています（埼玉県衛生研究所にて検査実施）。

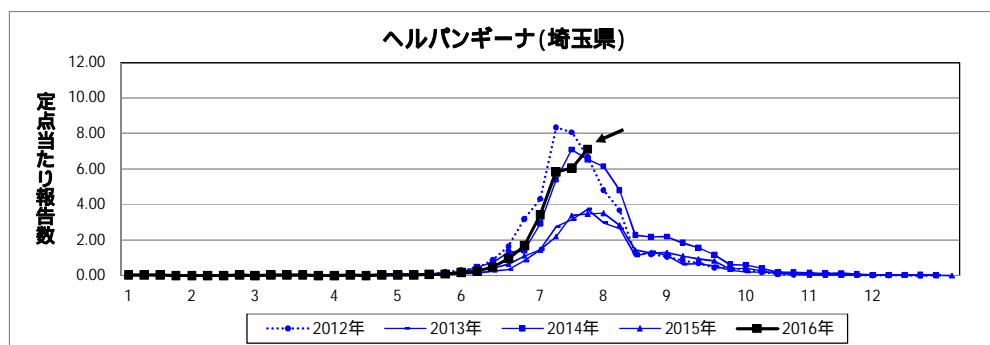


図2 ヘルパンギーナ 定点当たり報告数の推移

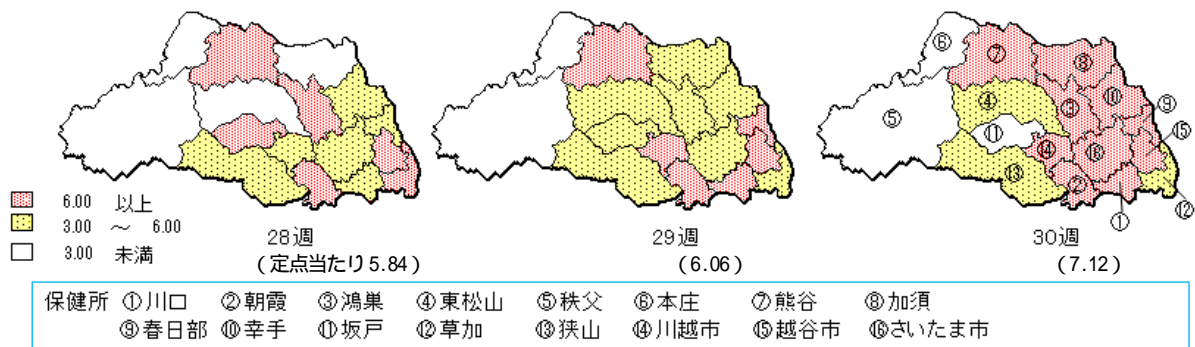


図3 ヘルパンギーナ 保健所別定点当たり報告数の推移

感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第30週)

(2016年8月2日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
一類感染症					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
二類感染症					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
三類感染症					
コレラ			腸チフス		2
細菌性赤痢		7	パラチフス		
腸管出血性大腸菌感染症	9	61			
四類感染症					
E型肝炎		11	東部ウマ脳炎		
ウエストナイル熱			鳥インフルエンザ(H5N1を除く)		
A型肝炎		4	ニパウイルス感染症		
エキノコックス症			日本紅斑熱		
黄熱			日本脳炎		
オウム病			ハンタウイルス肺症候群		
オムスク出血熱			Bウイルス病		
回帰熱			鼻疽		
キャサナル森林病			ブルセラ症		
Q熱			ベネズエラウマ脳炎		
狂犬病			ヘンドラウイルス感染症		
コクシジオイデス症			発しんチフス		
サル痘			ポツリヌス症		
ジカウイルス感染症			マラリア		
重症熱性血小板減少症候群			野兔病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱			レジオネラ症	2	45
つつが虫病			レプトスピラ症		
デング熱		6	ロッキー山紅斑熱		
五類感染症					
アメーバ赤痢	1	30	侵襲性肺炎球菌感染症		63
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		6	水痘*		7
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	24	先天性風しん症候群		
急性脳炎	2	30	梅毒	4	88
クリプトスポリジウム症			播種性クリプトコックス症		3
クロイツフェルト・ヤコブ病		4	破傷風		3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	14	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
後天性免疫不全症候群	1	24	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	6
ジアルジア症		1	風しん		4
侵襲性インフルエンザ菌感染症		6	麻しん		3
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		2
指定感染症	該当疾患は無し				

水痘*：患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計	5	1		

累計は診断日で集計

* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第30週 平成28年7月25日～平成28年7月31日)

	年齢別																				
	合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ #1	4	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	31	10	8	10	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	87	1	8	8	11	10	11	10	10	2	7	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	303	-	1	10	16	30	36	42	45	31	22	20	32	1	17	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	696	9	42	95	93	84	65	49	49	37	20	25	55	11	62	-	-	-	-	-	-
水痘	85	-	-	7	5	6	14	16	11	13	3	3	6	-	1	-	-	-	-	-	-
手足口病	154	-	13	55	30	17	15	5	5	2	4	2	4	1	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	22	-	2	2	1	3	3	3	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	105	1	38	55	9	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1,146	4	51	286	270	183	146	80	48	24	15	12	23	2	2	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	230	-	1	4	11	17	20	41	43	34	17	18	20	1	3	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	24	-	-	1	1	-	2	-	-	2	1	1	-	1	-	7	2	2	4	-	-
細菌性髄膜炎 #2	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	7	-	3	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報 第 28週

(7月11日～7月17日)

平成28年8月3日

インフルエンザの定点当たり報告数は第7週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.90)、徳島県(0.14)、鹿児島県(0.10)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は6例と前週と比較して増加し、5都県から報告があった。

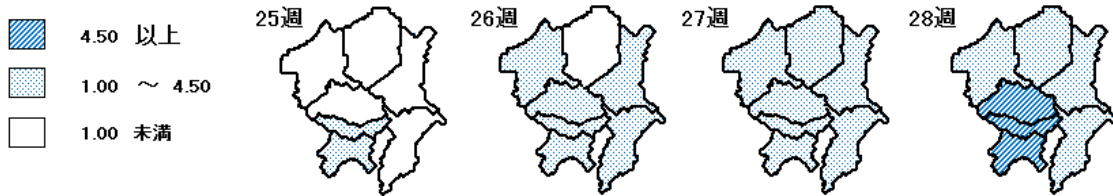
RSウイルス感染症の報告数は632例と第25週以降増加が続いている。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約82%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第24週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は福井県(1.59)、島根県(1.26)、沖縄県(1.12)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第24週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は山形県(4.40)、千葉県(3.68)、北海道(3.47)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第24週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は大分県(10.97)、愛媛県(6.76)、熊本県(6.62)である。水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は宮城県(0.76)、福井県(0.68)、福島県(0.65)である。手足口病の定点当たり報告数は第14週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は鹿児島県(4.09)、沖縄県(3.85)、千葉県(2.03)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は栃木県(1.19)、宮崎県(1.14)、島根県(1.00)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は宮崎県(3.78)、佐賀県(3.04)、鹿児島県(2.56)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は福岡県(3.93)、岐阜県(2.60)、群馬県(2.00)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は第25週以降減少が続いている。9道府県から13例報告があり、年齢別では0歳(3例)、1～4歳(9例)、5～9歳(1例)であった。

<関東情報>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、神奈川県(6.14)、東京都(5.89)、埼玉県(5.84)からの報告が多い。

ヘルパンギーナ



		平成28年 28週								
		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	131	28	1	1	3	4	6	9	4
	定点当たり	0.03	0.02	0.01	0.01	0.03	0.02	0.03	0.02	0.01
RSウイルス感染症	報告数	632	104	5	1	6	14	15	36	27
	定点当たり	0.20	0.11	0.07	0.02	0.10	0.09	0.11	0.14	0.13
咽頭結膜熱	報告数	1,791	539	37	17	21	91	67	183	123
	定点当たり	0.57	0.58	0.49	0.36	0.36	0.58	0.51	0.71	0.60
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	7,591	2,723	143	96	173	493	486	789	543
	定点当たり	2.42	2.92	1.91	2.04	2.98	3.12	3.68	3.05	2.65
感染性胃腸炎	報告数	13,954	4,296	307	65	263	831	530	1,390	910
	定点当たり	4.44	4.60	4.09	1.38	4.53	5.26	4.02	5.37	4.44
水痘	報告数	1,209	422	23	19	12	97	80	79	112
	定点当たり	0.38	0.45	0.31	0.40	0.21	0.61	0.61	0.31	0.55
手足口病	報告数	2,298	965	87	46	10	160	268	238	156
	定点当たり	0.73	1.03	1.16	0.98	0.17	1.01	2.03	0.92	0.76
伝染性紅斑	報告数	1,023	254	20	56	38	22	40	46	32
	定点当たり	0.33	0.27	0.27	1.19	0.66	0.14	0.30	0.18	0.16
突発性発しん	報告数	1,755	577	29	35	43	97	64	167	142
	定点当たり	0.56	0.62	0.39	0.74	0.74	0.61	0.48	0.64	0.69
百日咳	報告数	71	21	1	-	9	1	5	4	1
	定点当たり	0.02	0.02	0.01	-	0.16	0.01	0.04	0.02	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	12,712	4,937	240	182	216	923	592	1,526	1,258
	定点当たり	4.05	5.29	3.20	3.87	3.72	5.84	4.48	5.89	6.14
流行性耳下腺炎	報告数	3,978	1,043	85	53	45	233	132	208	287
	定点当たり	1.27	1.12	1.13	1.13	0.78	1.47	1.00	0.80	1.40
急性出血性結膜炎	報告数	8	4	-	1	-	1	-	1	1
	定点当たり	0.01	0.02	-	0.08	-	0.02	-	0.03	0.02
流行性角結膜炎	報告数	575	272	23	5	15	41	30	33	125
	定点当たり	0.84	1.35	1.35	0.42	1.07	1.00	0.88	0.87	2.72
細菌性髄膜炎 #2	報告数	13	4	-	-	-	-	-	2	2
	定点当たり	0.03	0.05	-	-	-	-	-	0.08	0.22
無菌性髄膜炎	報告数	50	6	-	1	-	-	3	2	-
	定点当たり	0.11	0.07	-	0.14	-	-	0.33	0.08	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	431	72	5	3	16	6	9	26	7
	定点当たり	0.91	0.89	0.38	0.43	2.00	0.60	1.00	1.04	0.78
クラミジア肺炎 #3	報告数	7	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	13	1	-	-	1	-	-	-	-
	定点当たり	0.03	0.01	-	-	0.13	-	-	-	-

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)

総合トップ

くらし・環境

健康・福祉

しごと・産業

文化・教育

県政情報・統計

総合トップ > 健康・福祉 > 感染症 > 感染症情報センター > 感染症の流行情報 > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2016年 > 感染症の流行状況 2016年 第30週

感染症発生動向調査 2016年

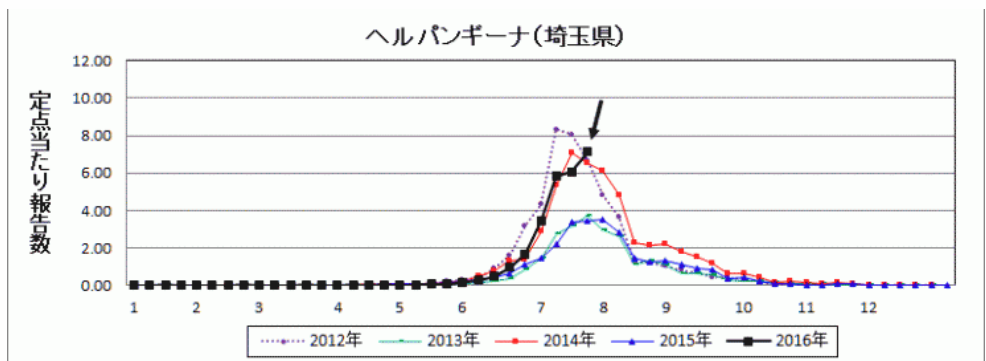
- [感染症の流行状況 2016年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第9週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第10週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第11週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第12週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第13週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第14週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第15週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第16週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第17週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第18週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第19週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第20週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第21週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第22週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第23週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第24週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第25週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第26週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第27週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第28週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第29週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第30週](#)

感染症の流行状況 2016年 第30週

2016年第30週（平成28年7月25日～7月31日）の要点 平成28年8月3日

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、前週より増加し、多い状況にあります。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	→	★	伝染性紅斑	→	★
RSウイルス感染症	→	★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱	→	★★	百日咳	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★	ヘルパンギーナ	↑	★★★
感染性胃腸炎	→	★★	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	★★★
水痘(みずぼうそう)	→	★	急性出血性結膜炎	→	★
手足口病	→	★★	流行性角結膜炎	→	★★

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)をご覧ください。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン